

他科の先生に
知って欲しい

豆知識・・・眼科編①⑦

成人を対象とした公的眼科検診について

岡山県医師会眼科部会 井口 俊太郎



今回は疾患についてではなく、眼科検診について述べさせていただきます。平成19年まで40歳以上を対象に実施されていた「基本健康診査」においては、医師の判断に基づき眼底検査が実施されていました。しかし、平成20年4月から特定健診が導入され、眼底検査については、詳細な健診項目として前年度の特定健診の結果等において一定の基準に該当した上で、医師が必要と認めた場合のみ実施されることになりました。その基準は以下の4項目で、これらすべての項目を満たした場合に限り医師の判断で眼底検査が実施されることになりました。

平成20年～平成29年の基準（すべての項目を満たす必要あり）

- ① 空腹時血糖100mg/dl以上またはHbA1c 5.6%以上（NGSP値）
- ② 中性脂肪150mg/dl以上またはHDLコレステロール40mg/dl未満
- ③ 収縮期血圧130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上
- ④ 腹囲が85cm以上（男性）・90cm以上（女性）の者、またはBMIが $25\text{kg}/\text{m}^2$ 以上の者

このように実施要件がかなり厳しく設定され、その結果として眼底検査受診者は特定健診導入後に激減しています。特定健診以外に独自の方法で成人眼科検診を実施している自治体もみられますが、多くの自治体で成人眼科検診はほとんど実施されなくなりました。

しかし、平成30年4月から特定健診の実施に関する基準の一部が改正され、眼底検査の実施基準も変更となりました。新しい基準では以下の2項目のいずれかを満たし、医師が必要と認めた場合に眼底検査を実施できることになりました。要件が緩和され、眼底検査の対象者は増加しています。

平成30年以降の基準（いずれかを満たしていればよい）

- ① 収縮期血圧140mmHg以上または拡張期血圧90mmHg以上
- ② 空腹時血糖126mg/dlまたはHbA1c 6.5%以上または随時血糖126mg/dl

特定健診における眼底検査は、糖尿病網膜症や高血圧網膜症だけではなく緑内障等の他の眼底疾患の発見にもつながります。当院で実施した特定健診時眼底検査においても、網膜前膜や緑内障等の疾患のみつかることがありました。中途失明の主要な原因である糖尿病網膜症や緑内障の初期は無症状であり、眼科を受診されていない患者さんも多数おられます。特定健診における眼底検査はこのような疾患を早期発見し、治療につなげる絶好の機会です。特定健診を実施される先生方におかれましては、該当する受診者に対し積極的に眼底検査の指示をしていただければ幸いです。

また、既に対象となる年齢を指定した緑内障検診（東京都大田区、石川県金沢市、愛知県犬山市など）や20歳以上の国保加入者を対象とした眼科一般検診（島根県松江市）など独自の取り組みを行っている自治体もあります。しかし、ほとんどの自治体においては、特定健診時眼底検査が成人眼科検診の貴重な機会です。成人眼科検診については、失明者減少効果や視覚障害に関連する社会保障費の削減効果などが期待できるとの報告もあります。また、視覚障害対策は健康寿命延伸にも寄与すると考えられます。ご協力の程どうぞ宜しくお願い致します。